

第2回 北里産学連携セミナー

第2回は「臨床医療における注目技術と産学連携」をテーマとし、学内の有識者から、臨床医療分野について、注目技術をご紹介いただき、産学連携促進、社会実装実現、新規事業創出に向けてのご提言をいただきます。

日時

2023年7月31日月 17:00-19:05

Zoom ウェビナーにてオンライン開催（事前申込制・参加費無料）
学内（学生・教職員）・学外問わず、どなたでも参加いただけます。

17:00～17:05 開会挨拶

17:05～17:45 基調講演：内視鏡外科における医工連携とその課題

内藤 剛 医学部下部消化管外科学主任教授／
北里大学病院副院長（危機管理・経営戦略・ICT/AI担当）

医工学連携は単に医療に使用する機器の開発のみならず、新しい医療技術を工学分野と協同して導入することも含まれます。内視鏡外科の急速な発展とともに多くの医療機器が開発され実用化されてきましたが、当初は医療現場での需要とメーカー側の方向性が常に一致していた訳ではありません。医療機器開発においては、医療従事者側のニーズを正確に開発者側に伝えることが最重要課題であると考えられます。

17:45～18:25 小児科（内科）領域のパラダイムシフト

石倉 健司 医学部小児科学主任教授／北里大学病院副院長（教育・研究・倫理担当）

患者へのインパクトが極めて大きい、近年の進歩を二つ紹介いたします。

1. 脊髄筋萎縮症（SMA）は寝たきりで呼吸器管理が強いられる難病です。近年ウイルスベクターを用いた遺伝子導入療法が開発されましたが、発症前の早期診断が重要であり、新生児マススクリーニングの導入が急速に進んでいるところ、我々の1例を紹介いたします。
2. 腎機能障害患者の腎性貧血は重篤な合併症であり、古くは頻回の輸血を強いられていました。その後赤血球造血刺激因子製剤（注射製剤）の導入を経て、近年HIF-PH阻害薬（内服薬）が開発され、貧血管理は劇的に改善しつつあります。このメカニズムの解明に関しては、2019年にノーベル医学生理学賞を受賞しています。

18:25～19:05 新規手術支援ロボット；Hugoの有用性と今後の展望

田畑 健一 医学部泌尿器科学准教授／北里研究所病院診療部泌尿器科部長

手術支援ロボットは、この4半世紀の間に外科手術の分野に大きな変革をもたらしました。中でもダヴィンチは、一強体制で世界の手術支援ロボットの分野を牽引してきました。一方、ここ数年は世界で新たな手術支援ロボットが開発、臨床導入され、手術支援ロボットの選択肢が広がっています。本セミナーでは、2022年に本邦で承認された新規手術支援ロボットであるHugo™ RAS システムを中心に、その有用性と将来展望につきお話しします。

参加ご希望の方は、
右QRコードより
お申込みください。
【締切7/31正午】



主催：学校法人北里研究所 知財・研究推進部

E-mail: ksuisin@kitasato-u.ac.jp TEL:03-5791-6337,6263

協力：一般社団法人日本医工ものづくりコモンズ